自然教育園見ごろ情報

2026年11月26日号

附属自然教育園 検索

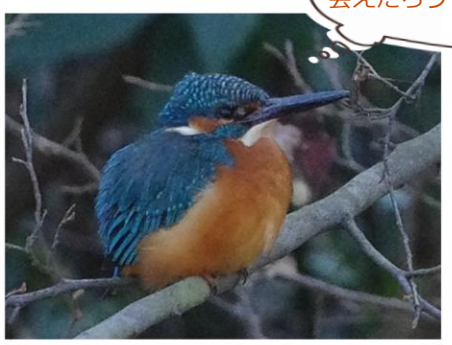
詳しくはＨＰの「見ごろ情報」をご覧ください
https://ins.kahaku.go.jp/

今週はここに注目！

園内の木々が
色づいています



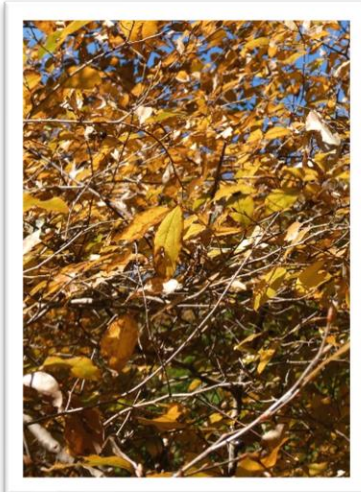
おろちの松コース
（11月26日撮影）



水辺で見られます
会えたらラッキー♪

カワセミ

「翡翠（ひすい）」「水辺の宝石」と呼ばれる、美しい鳥。水の中に潜り、魚やザリガニなどを捕らえます。大きなくちばしは狩りで大活躍するほか、横穴式の巣穴を掘るときには「ツルハシ」の役目をします。



ヤマコウバシ（黄葉）

葉がオレンジ色に色づいています。山香（やまこうばし）の名前は枝や葉を折るとよい香りがすることによります。ショウブに似た香りから、「ショウブノキ」という別名もあります。



ヤツデ

おしべ→めしべの順で熟し、めしべが熟す時期にはおしべはなくなります。これは、同じ花の花粉がめしべにつく「自家受粉（じかじゅふん）」を避ける仕組みです。7～9裂する掌のような大きな葉が特徴です。



ムラサキシキブ（実）

美しい紫色の実を、源氏物語の作者「紫式部」の名前にたとえ、この名前がついたと言われています。





ムクロジ（黄葉）

葉がきれいに色づいています。園内各所でみられます。高木なので、ぜひ見上げてみて下さい。



サネカズラ（実）

鮮やかな赤い実がたくさん集まってボール状になります。つやのある色合いが食欲をそそりますが、あまり甘みはないようで、食用にはされません。野鳥にもあまり人気がないようです。



ムサシアブミ（実）

トウモロコシのような形の赤い実が、ごろっと倒れています。赤くて美味しそうに見えますが、有毒で食べられません。



センリョウ（実）

古くから日本庭園に栽培され、花びらのない小さな花を多数つけます。赤くなった果実は、「千両」とも呼ばれ、正月の「縁起物」として飾られます。

天然記念物及び史跡
科博 自然教育園

©2026　独立行政法人国立科学博物館附属自然教育園